



網走養護学校だより

令和2年度
第 5 号
(通210巻号)
2月19日発行

TEL 0152-48-2137

「春は来る」

(高校バレーの応援席に掲示された言葉です)

教頭 能 藤 隆

新しい年が始まり、もう少しで2か月が過ぎようとしています。網走湖の凍結、流水の到来など、まだまだ寒さは厳しいことですが、季節は少しずつ春に向かっていくように感じます。

網走養護学校の周りには、シラカバやナナカマド、サクラ、クリ、ヒバなどの木が植えられています。朝、学校までの道を歩いていると、木々の間から小鳥の鳴き声が聞こえてきます。時には、木をくちばしでつつく、小気味よい音が聞こえてくることもあります。最近、その小鳥たちの鳴き声が変わってきたように思います。

以前、野鳥の会の方にうかがった話では、冬の間の野鳥の鳴き声は「グズリ」と言って、少しやかましく感じるような濁った鳴き声をするそうです。それが春になると、仲間に呼びかけるような澄んだ鳴き声、「さえすり」という声に変わるそうです。この「さえすり」により、お目当ての相手呼び寄せているようなのです。

野鳥たちにとっては、まだ雪におおわれ寒くても、日差しの強さやえさとなる食べ物が増えてくることで、春の訪れが分かるのです。そして、まだ寒さの残る季節であっても、次に訪れる春や夏に向けて、今、やっておかなくてはならないことを、着実にやり、来る季節に備えているようです。

学校の前の畑も、あと少しすれば、畑の雪も消えてきて、真っ黒い土が顔を出します。既に昨年、畑に蒔き付けられた秋蒔き小麦が、温かい春の日差しを受けて、すくすくと元気に緑の葉を伸ばしてくるでしょう。

学校生活の一年間が、もう少しで終わります。そして、節目の季節、卒業や進級の時期を迎えます。これまで学んだことや経験したこと、考えたことなどを生かして、それぞれの次のステップに向かって、さらなる飛躍を期待します。

元ラグビー選手の平尾誠二さんは、「がんばる」という言葉をあまり使いませんでした。そのかわり「しんどいことを楽しむ」という考えを持っていたようです。どんな状況にあっても、ラグビーの試合運びのように、人生の展開を考えている方でした。

現在、不安や息苦しさをを感じる生活が続いています。けれども、コロナ禍にあっても、家族や友人、職場の仲間、地域の人たちと協力して、ともに乗り越えていきたいと思います。そして、いつの日か、ともにノーサイドを迎えましょう。

どうぞ、今年もよろしくお願いいたします。



寄宿舎 クリスマス会

今年も寄宿舎でみんなが楽しみにしているクリスマス会が行われました。今年度はコロナ対策のため密を避けて各棟で行いました。では今年はどうなクリスマス会になったかというところ・・・寄宿舎職員による器楽演奏やダンス、舎生の有志を募ってのマジックショーをDVDにまとめ、それを各棟で楽しみながら見ました。ダンスには校長先生や栄養教諭、調理員さん達にも参加していただき、舎生達よりも職員の方が楽しんでいただけたようにも思います。DVDの後はボリューム満点のクリスマスケーキを食べ、休憩を挟んだ後は豪華メニューの会食です。いつもと違ったメニューの食事を食べ、みんな大満足な様子でした。（文責：武内）



地域連携研修を開催して

令和3年1月7日（木）に地域連携研修会をオンラインで開催しました。講師に札幌大学 教養学系（特別支援教育）教授の高橋和明氏をお迎えし、「子どもたちが主体的に活動する授業づくりを目指して～教材・教具の活用～」をテーマに講演会を行いました。講演会では、「教育的かかわり合いのツールとしての教材・教具について」などについてのお話を聞くことができ、教材・教具を媒介として児童生徒と関わり方や児童生徒の成長を促すことの重要性を改めて感じる研修会となりました。参加者からは「肢体不自由だけでなく、『何のために、その教具を使うのか』ということを考え直し、また実践の際に他の先生と相談しながら検証を重ねていこうと思いました。」等の感想を多くいただき、実りのある研修会となりました。

（文責：古市）



編集後記

本年もどうぞよろしくお願いいたします。今号の学校便りでは、年末年始に行われた行事を中心にお届けしました。次号は、今年度最後の学校便り発行になります。（文責：宍戸）